

# 地質調査技士資格検定試験に合格して

株式会社東北地質 白鳥 翔



私は令和三年度地質調査技士資格検定試験を受験し合格することが出来ました。拙い文章で大変恐縮ですが、自身の体験記を書かせて頂きたいと思います。

## 〈受験の目的〉

当社では受験資格を満たした従業員に地質調査技士資格の取得を推奨しております。各人の知識及び技術向上という目的の他に、仕事への自信や意欲向上に繋げるためです。

## 〈受験勉強〉

受験勉強は当社の諸先輩方より、ひたすら過去問を解くことを勧められました。自身の予定が合わず「事前講習会」に参加が出来なかったため、上記の過去問を解くことにより、択一問題・記述問題ともに出題傾向を把握し「ボーリングポケットブック」をメイン教材として勉強していきました。（他の合格者様の体験記を拝見しましたが、予定が合えば私も事前講習会に参加したかったです。）

私はボーリング調査の機長及び助手の経験がありますので、今回の受験勉強を通して現場で学んだことの理解が更に深まりました。

## 〈試験〉

今年度の試験は、若干新傾向問題が出題されたように感じました。

前半の択一問題は過去問と違う切り口での出題でしたが、ボーリングポケットブックを読み込んでいたため何とか対応出来たと思います。

後半の記述問題は勉強中も苦手意識がありましたが学生時代を思い出し、諦めず時間いっぱいまで書き切りました。

午後の口頭試験は緊張してしまい頭が真っ白になってしまった場面もありましたが、面接官の方に優しくフォローして頂けたので何とか持ち直すことが出来たと思います。

## 〈最後に〉

合格の自信は半々であったため、HPに私の受験番号を見つけた際は感無量でした。今まで客先に名前だけが書かれた名刺をお渡しすることに心苦しさがありましたが、やっと胸を張って名刺交換をすることが出来ます。

地質調査業に携わる者として、地質調査技士であることに誇りを持ち、さらなる知識・技術向上のために、これからも日々精進してまいります。

## 川崎地質株式会社 北日本支社 敦賀 理那

**【1.はじめに】**

新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年先延ばしになりましたが、令和3年度地質調査技士資格検定試験を受験し、無事合格することができましたので、体験記を書かせていただきます。

**【2.試験勉強】**

受験するにあたり、まず、事前講習会を受講しました。講習会は講師の方々からわかりやすく、また、重要なポイントを絞って説明していただけたので、試験の傾向や自分の理解の足りない分野を知ることができました。

事前講習会後から試験勉強を始めました。まず、自分の苦手な分野についてテキストを一通り読み、その後、印刷した5年分の過去問を8割程度正解するまで繰り返し解きました。

記述問題は技術者倫理が必須問題なため、何度も書いたり、声に出して読んだりし、すらすらと答えることが出来るようにしました。選択問題については何が出るかわからないので、液状化や圧密沈下についての基本的なことを覚えたり、自分の行った業務について振り返って要点を思い出したりしました。

**【3.試験当日】**

試験が始まった時、毎年同じように出

題されていた問題が傾向を変えて出題されていたことに衝撃を受けました。気を取り直し、わかる問題から解いていき、分からない問題はほかの問題が全て終わってから、落ち着いて考えて解きました。

午後の筆記問題では、見直しの際、問題文に各問の文字制限の記載があることを見落としていました。気づいた時、試験開始から結構な時間が経過しており、全部消して直す時間はなく、また、全部消すと書いたことを忘れてしまいそうで非常に焦りました。過去問と似た問題だ！と早とちりして問題文をしっかり読まなかったことを反省しつつ、文章を読み直し、語尾や文言を別の言い回しに言い換えることで何とか時間内に修正することができました。

**【4.おわりに】**

1年下の後輩と同時受験だったため、少しのプレッシャーを感じながら受験しました。

逆に“勉強しなきゃ”という気になれたので良かったかもしれません。

また、試験を終えた後、試験前より業務に関する知識が以前より身についたと思えるときがあり、資格の為だけでなく、知識をつける上でも試験を受けてよかったと思います。

## 応用地質株式会社 東北事務所 福田 智咲



私は今年度の地質調査技士の試験を受験し、無事合格することができました。新型コロナウイルスの影響により前年度は試験がありませんでしたので、今回が初めての受験でした。

拙い経験ではありますが、合格に至るまでの体験をご紹介します。

### ▼地質調査技士事前講習会に参加

6月に実施された地質調査技士事前講習会では、講師の方々が過去頻出の問題についてわかりやすく解説してくださいました。また、講習会の際に配布された、過去問の解説を取りまとめたテキストは、試験当日まで手放せない重要アイテムとなりました。

### ▼試験への対策

#### ①択一問題

過去5年分の問題を繰り返し解きました。試験時間は180分と長いので、同時に解きなおしの練習もしました。1度間違えた問題は次回間違えないように心がけましたが、その甲斐なく不正解はあまり減りませんでした。

試験は年度ごとに似たような問題が何問か出題されていますが、文末が違っていたり、選ぶのが正しいものか誤ったものを選ぶのが違ってきます。そのため、私の早とちりや勘違いによるミスが多いのが問題でした。当日はこのパターンでの不正解を少しでも減らすのがポイントと感じました。

#### ②記述問題

過去に実施した業務の中で、説明しやすい業務を選び、概要や調査内容などを書き出して暗記しました。

倫理要綱も暗記しました。一度に長文を暗記するのは大変なので、はじめは文章を分割して覚えました。文章を声に出して唱えるのもなかなか効果的でした。

### ▼試験当日

試験当日はやや早めに会場に入りましたが、忘れ物がありバタバタとしてしまい、結局着席できたのは時間の2~3分前でした。早めに着席し苦手と感じた分野の最終確認に時間を使う予定でしたが、全くその通りにはいきませんでした。

### ▼反省点

試験終了後に自己採点をしましたが、確実に正解したと思った問題を外している箇所が何か所かありました。試験への対策として早とちり・勘違いでの失点を防ごうとしていましたが、残念ながら完全に防ぐことはできませんでした。どの試験にも共通することですが、問題を最後までしっかり読む・見直しで失点を少なくするといったことの重要さと難しさを再認識しました。試験だけでなく、業務にあたる際にも今回の反省を活かしていきたいと思います。

反省ばかりの試験でしたが、なんとか合格することができました。合格証が届いたときはほっとひと息付けました。

### ▼今後について

今回、幸いにも地質調査技士の資格を取得することができましたが、業務を遂行するにあたりまだまだ未熟で至らないと感じることばかりです。今後は、自らの技術力を高めるべく、積極的に地質技術や関連する技術の習得に努めていきたいと思っています。